

製品名: MPP10 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14059**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	78kDa

抗原情報

遺伝子名	MPHOSPH10
別名	MPHOSPH10; MPP10; U3 small nucleolar ribonucleoprotein protein MPP10; M phase phosphoprotein 10
遺伝子 ID	10199.0
SwissProt ID	O00566
免疫原	MPP10 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 60-140

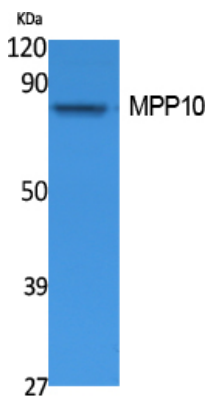
背景

この遺伝子は、有糸分裂中にリン酸化されるタンパク質をコードします。このタンパク質は、間期には核小体に、M 期には染色体に

局在します。このタンパク質は、U3 核小体小型リボ核タンパク質 60-80S 複合体と会合し、pre-rRNA プロセッシングに關与している可能性があります。[RefSeq 提供、2010 年 12 月]機能: 60-80S U3 核小体小型リボ核タンパク質 (U3 snoRNP) の構成要素。pre-18S リボソーム RNA プロセッシングにおける初期の切断に必要です。、PTM: M 期 (有糸分裂期) にリン酸化されます。、類似性: MPP10 ファミリーに属します。、細胞内局在: 核小体の線維状領域。M 期初期に核小体が溶解した後、中期および後期を経て染色体と会合します。終期には、必ずしもフィブリラリンを含むとは限らない小さな細胞核小体前部に局在する。核小体との再会合は、フィブリラリンの到達に先行する。、サブユニット: IMP3、IMP4、および MPHOSPH10 を含むヘテロ三量体複合体の構成要素。IMP3 および IMP4 と相互作用する。、

研究分野

画像データ



MPP10 ポリクローナル抗体を使用した、Jurkat 細胞抽出物のウェスタン プロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。